**日本介護福祉学会関東ブロック研修会・京都大学文学研究科安里研究室・日本介護福祉士会 共催**

**シンポジウム「高齢者ケアはどう変わってきたか**

**：台湾とドイツにみる制度と人材育成」**

・開会あいさつ＆開催趣旨（佐藤富士子・日本介護福祉学会関東ブロック担当理事）

1. 基調報告

　　安里和晃（京都大学大学院文学研究科・アジア研究教育ユニット准教授）

（２）台湾の経験から：Long Term Careの動向と介護人材」（仮）

　　　　李玉春氏　国立陽明大学衛生福利政策研究所教授　前台湾政衛生福利部政務次長（社會

　　　　福利與介護制度）

（３）ドイツの経験から：「ドイツの介護強化法と介護人材」（仮）

　　　　吉田恵子氏　東京医科歯科大学非常勤講師　通訳

・コメント　　　内田千恵子（日本介護福祉士会理事）

・会場との討論

・まとめ　 　　太田貞司（日本介護福祉学会会長　京都女子大教授）

　2014年以後、介護人材の質と量の確保が、一層、重要な政策的な課題となり、介護人材の養成を「まんじゅう型」から「富士山型」へと転換が行われようとしています。本シンポジウムでは、他地域の事例に学ぶため、台湾から、前政権の介護保険制度の検討の担当副大臣・李玉春氏、ドイツから医療制度の研究者である吉田恵子氏をお招きします。それぞれの地域における長期ケアと介護人材の養成と確保の取り組みをお話しいただき、日本の介護保険制度の今後、介護人材の養成と確保の課題と解決策を議論します。

　高齢化社会を迎えた国々は、高齢者の長期ケア（long-term care）がすでに社会政策上の重要な課題です。台湾では、前政権の下で介護保険制度導入が検討されましたが、現政権においては長期ケアサービス法のもと、税方式で長期ケアの充実を訴えています。いずれにせよ、介護職の養成が課題になっているのは共通しています。いち早く介護保険制度を導入したドイツでは、今年から介護保険制度の強化が行われました。職業学校を通じたアルテンプフレガー／リン（Altenpfleger/in）の人材育成に加え、EUでの資格の標準化も議論されています。両地域では、高齢者ケアの在り方とともに、同時に介護人材の養成・確保が議論となっています。

**日時：平成 29年11月 26日（日）１3時～ １7時 （受付12時30分より）**

**会場：大妻女子大学（千代田キャンパス） F棟　332教室**

**会費：会員1000円　非会員2000円　学生無料**

　　 **申し込み：裏面の申込書に必要事項を記入し、FAX 、メールにてお送りください。**

FAX 番号042-372-9202（大妻女子大学福祉共同研究室・佐藤富士子宛）

　　　メール nihon-kaigo@ml.otsuma.ac.jp（大妻女子大 佐藤富士子）

　　　　　 　kaigo.international@gmail.com（京都大学安里研究室）

|  |
| --- |
| 研修会参加　希望 |
| FAX　**042-372-9202** |
| 平成 29年1１月 ２６ 日(日)の 研修会の参加を申し込みます。氏名　 所属会員、非会員、学生　（いずれか○を付けてください）連絡先 |

**大妻女子大学（千代田キャンパス）アクセス**

住所：〒102-8357 東京都千代田区三番町12番地
TEL：03-5275-6000（代表）

　〇JR 市ケ谷駅をご利用の方　　改札を出て徒歩10分

　〇地下鉄 市ケ谷駅をご利用の方　A3出口を出て徒歩7分

　〇地下鉄 半蔵門駅をご利用の方　5番出口を出て徒歩5分

　〇地下鉄 九段下駅をご利用の方　2番出口を出て徒歩12分